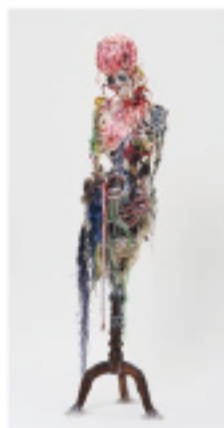


## 企画展

### 真島直子 地ごく楽

4月24日(火)～7月1日(日)

真島直子(1944-)は今日の日本を代表する作家のひとりです。鉛筆による細密描写で、2002年にバンクーバー・アジア・ピエンナーレでグランプリを受賞しました。人間の存在の根源に向き合い、野蠻さと繊細さをあわせ持った真島の表現は、私たちに私たちの本性をみつめることを促します。本展では「地ごく楽」シリーズなどの代表作品と立体作品やインスタレーションに、油彩画による新作を加え、創作の歩みを紹介します。



(原簿) 2012年 個人蔵  
(撮影: 高島佳/写真提供: ミヅマアートギャラリー)

### 明治維新から150年 浮世絵にみる子どもたちの文明開化

7月14日(土)～9月2日(日)

今から150年前、日本は文明開化の時代を迎えました。当時の浮世絵には、洋服を着て学校で学ぶ子どもたちや、江戸の遊びの文化を受け継ぐ着物姿の子どもたちが描かれ、当時の時代の空気を息み取ることができます。

本展では、教材になった浮世絵や子どものおもちゃ絵など約300点で、明治の新風と江戸の面影のはざま遊び、学ぶ子どもの姿をみつめます。



長谷川利行  
『開風必携つくし 洋心く』  
公文教育研究会蔵

### 長 重之展

—渡良瀬川、福猿橋の土手—

9月15日(土)～11月4日(日)

「渡良瀬川、福猿橋の土手」は、長重之(1935-)のアトリエのすぐ近くにあり、慣れ親しんだ風景です。長にとって渡良瀬川南に拓ける広大な田畑は、水平な「面」、土手はその境で「線」を意味し、「俯瞰」という造形感覚が平面・立体から身体表現にまで、長の作品全体に流れています。長重之の約70年に及ぶ活動を、師友の作品とあわせて約80点で回顧します。



(例作Xb) 1981年 作家蔵

### 長谷川利行展

11月13日(火)～12月24日(月祝)

長谷川利行(1891-1940)は、当初文学に傾倒しますが、独学で絵を学び、画家として活動しました。36歳で二科展博牛賞を受賞、一躍脚光を浴びました。しかし、何もかも捨て去り、その日暮らしの放浪生活を送りました。

彼の絵は、行き詰まった生活とは裏腹に、むしろ行き詰まれば行き詰まるほど、輝きを増しました。本展は再発見作を含む約140点による18年ぶりの大回顧展です。



(原簿) 1927年 愛知美術的館蔵

2019年 1月26日(土)～2月11日(月祝)  
足利市民文化財団所蔵品展  
足利市民文化祭優秀作品展

2019年 2月16日(土)～3月3日(日)  
第11回 足利展

2019年 3月9日(土)～3月24日(日)  
足利市立美術館所蔵作品展(仮)

## ■特別展示室■

美術館受付前にある小さな展示室では、企画展に合わせた展示や、足利にゆかりのある作家の作品を展示しています。